# 『エッセンシャルガイド 統一英語点字 UEB で何が変わるか』の UEB 規則改訂に伴う内容変更

日本ライトハウス点字情報技術センター

ICEB(国際英語点字協議会)は2019年10月8日、コーテーションマークとアポストロフィに関するUEBの規則改訂を発表した。

これに伴い、『エッセンシャルガイド 統一英語点字 UEB で何が変わるか』(福井哲 也著、2015年、日本ライトハウス)で解説した内容が、以下のとおり一部変更となる。

1章Eの記号表 (p.15) と 3 章 17 節の記号表 (p.111) に掲載した記号のうち、次のものの名称が変更された。

#### 【新しい名称】

シングルコーテーションマーク

2マスのダブルコーテーションマーク

E-2 (p.16) に記述したコーテーションマークの用法が、一部修正となる。

コーテーションマークは、墨字の形に従い、ダブル ("") は ここでで表す。(墨字の形にかかわらず、最も使用頻度の高いコーテーションマークを1マス記号の ここで表すという規則はなくなった。)

引用の中にさらに引用がある場合、アメリカでは外側にダブルコーテーション、内側にシングルコーテーションを使うことが多く、イギリスでは逆に外側にシングル、内側にダブルを使うことが多い。

[例] "Uncle sang 'Hey Jude,'" Sue wrote.

(「おじさんが『ヘイ・ジュード』を歌った」とスーは書いた。)

'Uncle sang "Hey Jude," 'Sue wrote.

外側にシングル、内側にダブルのコーテーションマークが使われている文章は、文章 全体にわたりシングルとダブルの点字記号を入れ替えて点訳することが許容される。こ のようにしたときは、点訳書凡例等で説明するとよい。

[例] 'Uncle sang "Hey Jude," 'Sue wrote.

17-6 (p.116) に記述したコーテーションマークの用法およびアポストロフィとの使い分けについて、いくつかの点で変更がある。

(a) 前述のとおり、ダブルコーテーションマーク("")は ここ、シングルコーテーションマーク('')は ここでで表す。ただし、イギリスの書物でよく見られるように、主要なコーテーションマークにシングル、二次的なコーテーションマーク(引用の中の引用など)にダブルが使われている場合、文章全体にわたりシングルとダブルの点字記号を入れ替えて点訳することが許容される(その旨点訳書凡例等で説明するとよい)。コンピュータの自動点訳ソフトは、ダブルとシングルの点字記号の割り当てをオプションで指定できるようにすることが推奨される。

また、ダブルアングルコーテーションマーク (イタリアンコーテーションマーク) («») は ここここ で表す。

- (b) 向きのない (開きと閉じが同形の) ダブルコーテーションマーク (") まま およびシングルコーテーションマーク (") は、次のような比較的稀な場合にのみ用いる。
  - ・それが、向きのある(開きと閉じが異なる形の)記号と区別して論じられる場合 (活字の書体に関する記述など)
  - ・それが明確な意図を持って使われている場合(コンピュータの文字コード表やプログラム言語など)

・開きと閉じを文脈から推測することが不可能な場合

(c) アポストロフィ(') は こ で表す。墨字では、アポストロフィはシングルコーテーションの閉じ記号または向きのないシングルコーテーションと同形の活字で印刷されていることが多いので、点訳者は注意深く区別する必要がある。

コンピュータの自動点訳ソフトは、アポストロフィとシングルコーテーションを完全に正確に区別することができない。次善の策として、自動点訳ソフトには、 'tis のようにアポストロフィで始まる語や nothin' のようにアポストロフィで終わる語の辞書を搭載することが推奨される。また、自動点訳ソフトは、記号がアポストロフィかシングルコーテーションかを、前後の文字の並びから次のように判断してもよいこととする。すなわち、その記号が単語の途中にあればアポストロフィ、単語の頭に付いていればシングルコーテーションの開き記号、そのいずれでもなければシングルコーテーションの閉じ記号とする。

(d) ダブルコーテーションの開き記号が語頭以外の位置にある場合、 は疑問符 (?) と読めてしまうので、2マスのダブルコーテーションマーク き を用い、もし対応する閉じ記号があれば、 を用いる。

#### 「何」 Franc"e"s or Franc"i"s

## 

また、稀なケースであるが、ダブルコーテーションの開きまたは閉じ記号が「単独」の場合(「単独」の定義は p.32 参照)、 は his、 は was と読めてしまうので、 2マスのダブルコーテーションマーク または または を用い、もし対応する閉じまたは開き記号があれば、それも 2マスの記号で表す。

「例 Put the "at the end of a quote.

(引用文の最後にコーテーション閉じを付けなさい。)

(" ... that is the question.")

(「…それが問題だ。」)

("To be or not . . . ")

(「生きるべきかそれとも…」)

これらの処理は当該箇所のみで行うもので、文章全体の書き方には影響しない。

《備考》本来、コーテーションマークとその内側の句読符との間にスペースは不要である。その意味で上記2番目と3番目の例はかなり特殊なケースといえる。たとえ墨字でスペースがあいていたとしても、詰めて点訳する処理も可能であろう。そうすれば1マスのダブルコーテーションが使える。

- (e) ダブルコーテーションの開き記号の直前に1級指示符があると、 は疑問符
- (?) と読めてしまうので、ダブルコーテーションの開き記号は1級指示符の前に置く。

#### [例] "Y-M-C-A"

## -----

《備考》これまでの規則には、Y-M-"C"-A のように、1 マスのコーテーションの開き記号を1 級指示符の前に置くことが不可能な場合は、該当する2 マスのコーテーションマークを使用するとの規定があったが、この度の改訂で削除された。

「例】 Put the 'at the end of a quote.

	] =	- :-		- - - [	] ::	: -		• - 	- • • -	- • -	<u>-</u> -		- ::	• - 	
:::		• • •	· - •	• •											

Use the "to enclose filenames.

(ファイル名を囲むのにコーテーションマークを使いなさい。)

(' ... that is the question.')

('To be or not . . . ')

(上記3番目と4番目の例については、(d) の備考参照。)